

郡上長良川ロータリークラブ

クラブテーマ **楽**

会長：小島正則 副会長：山下 誠 幹事：松森正和

例会日：毎週水曜日 18：30～

例会場及び事務所：白鳥町農業指導研修センター 2F

TEL：0575-82-3822 FAX：0575-82-5191E-mail：gsrc@abelia.ocn.ne.jp 発行 クラブ会報委員会

第2083回 令和4年10月26日(水)

本日の行事 交換卓話(加賀中央RC 東野様)

2022-23年度 小島正則会長
本日のお客様 加賀中央RC 永山信也様
東野真樹様、徳田 満様、小前田外喜男様
幹事報告 松森正和幹事

* 中農駅伝競歩大会より 協賛金のお願い
* RI 日本事務局より
ポールハリスフェローバッジ
* 地区大会事務所より 地区大会参加のお礼

* 志摩 RC より 新聞掲載記事 拝受

**

第2082回例会報告

会長挨拶

2022~23年度 小島正則会長

皆さん今晚は。今日は大和例会という事で、お世話になります。
先週、志摩ロータリークラブとの交流会で志摩市へ行ってきました。天候に恵まれまして、志摩ロータリークラブの皆様の厚い歓迎を受け、細やかな接待を受け感激致しました。
又今週月曜日には東海北陸道グループの親睦ゴルフ大会があり、ホストという事で7時に集合し、準備を致しました。参加されました皆様、お疲れさまでした。
今夜は学芸員の松原様にお越しいただき、卓話を頂戴いたします。よろしくお願い致します。

外来卓話(郡上の歴史)

フィールドミュージアム学芸員 松原恵美様

郡上市役所の職員で7年前からフィールドミュージアムで務めております松原といいます。

元々郡上の生まれではなく、幕末維新期の歴史が専門で郡上の歴史の編集のアルバイトをしておりました。今回はフィールドミュージアムにお越し頂いてお話しせよと畑中さんからお話を頂きましたので、専門外ではありますが、和歌や短歌、そして郡上東氏 800年・古今伝授 550年のお話をさせて頂きたいと思っております。



最初に800年、550年の紹介をさせていただきますが、間もなくNHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」クライマックスで出てくるであろう1221年承久の乱の時に、幕府側で手柄を立てて、この地を与えられたのが郡上東氏です。2021年でちょうど800年でした。それから550年というのは、応仁の乱の翌年、文明3年に郡上東氏の九代東常縁が連歌師宗祇に古今和歌集の解釈を初めて伝えて、それから550年、2021年に二つの年が重なったという事で、実は市の職員ではなく日置市長が気付きました。

2021年から郡上東氏800年・古今伝授550年として地域振興を始めようということでスタートしました。2021年に華々しく大々的に行う予定がコロナの影響で、中々出来なかったという事もありましたし、篠脇山を国の史跡に指定しようと発掘調査を行っております。それが令和6年に5年から6年にかけて国の史跡に格上げされる予定であることから、それまでの間、幅広く郡上東氏800年・古今伝授550年という事で地域振興を進めようということで取り組んでおります。

千葉氏ですが元は千葉常胤の六男です。千葉氏は元々桓武平氏で平氏の流れでしたが、源氏の源頼朝

の味方をしていきます。関東における争いがあった血流だけではない所で源氏に味方をしていきました。下総国は埼玉県などを中心に朝鮮半島からの渡来人の名残の地名や神社、遺跡などが多くあります。千葉氏が拠点を置いた下総国でもそうした大陸からの渡来人が多く移住して開拓をしていった土地で、その大陸の遊牧民が崇めていた北極星や北斗七星を信仰する妙見信仰を巧みに取り込んでいき勢力拡大していきました。

その妙見信仰の家紋は月星紋です。三日月の周りに丸で囲まれたものです。鎌倉時代の絵図面は残っておりませんので、一番新しく江戸時代の古文書です。郡上市では真中が三日月の紋章で明建神社にありますし、なぬかり祭という8月7日の明健神社の例大祭の獅子の胴体に描かれているのをシンボルマークとして使用させていただいています。



大河ドラマの鎌倉殿の13人が始まった時、13人の中に千葉氏が入っているのではないかと、あわよくば東氏も出てこないかなと随分期待したのですが、実は入っておりませんでした。ただ宿老ではないですが、代々の将軍にそば近く仕えておりました。それが2代の重胤の源実朝の「無双の近習」と言われまし、3代目胤行、これは郡上に来て5代将軍宗尊親王らと和歌を通じた交流がありました。たいへんそば近くに仕えておりました。それが東氏という一族です。

550年になっております古今伝授ですが、簡単に言えば和歌の教科書である古今和歌集の解釈を伝授していく事。ではどうやって古今伝授が行われていたかというと、当時はビデオも何もありませんので、口伝えだけでした。ですから師が伝えた事を弟子が理解してくれないと、あの先生は間違ったことを言っていたとなると自分の権威が汚されてしまう。師が認めた弟子にしか内容を教えることが許されませんでした。最初に弟子入りをして、誓約書を作成します。これは残っています。研鑽を積んで認められたら、これはある程度お金を払っておりました。古文書に払った記録はありませんが、江戸時代の記録には10両とか30両とか記録が残っています。和歌の才能があってもお金がないと古今伝授は受けられなかったという事です。そうしたことでお金も授業料という事で認められて、人格的にも認められた人に古今伝授が始まっていきます。

古今和歌集はもちろんですが、伊勢物語や源氏物語などの内容も伝えられました。その内容は時代によっても変わっていき、江戸時代には徒然草も伝えられていきました。

古今伝授の授は授業の授を使いますが、古文書では受けるの受を使っています。いまの学会の論文でも正しいものと解釈されています。伝授は師から伝えを受けるというものでした。古今伝授は師は優しくなく、弟子が質問したことにはしか教えてくれませんでした。ですから弟子にもある程度の基礎知識と頭の良さがなければ、正しい古今伝授をすべて受けることが出来なかったと言われていました。

東常縁もたくさんの人に古今伝授を伝えましたが、全部の内容を伝えたのは宗祇だけだったという記録があるほどです。

東常縁は初めて和歌の弟子入りをしました。平安時代の終わり位に荘園制度が崩壊していきます。だんだん武士が台頭してきて、それまでの貴族は荘園からの収入が少なくなってきます。そこで自分たちは何で食べていこうかと考えた時に、先祖伝来の文化を糧として生きていきます。この家は和歌の家、この家は手毬の家、この家は書の家というように、それぞれの公家たちが自分たちの生業を確立していきます。その中で、百人一首で有名な藤原俊成、定家、為家の3人が御子左家というものを作りますが、そこで和歌を伝えていく基礎を確立していきます。そして和歌というものは、書物に書いてある事を読むだけでは理解できない。あくまで師匠がそこで言葉でその解釈や背景などを補いながら伝えていって初めて理解できるという事で、口伝という伝授方法が確立していきます。その後、百人一首を作った藤原定家は源実朝の頃の人です。その後、天皇家の皇統争いに巻き込まれて行って、和歌の家も自分の勢力を拡大するためにいくつかの家に分かれていきます。そのうち東常縁は、二条流という流派の一門の弟子になっていくんです。その二条流に初めて東氏で弟子入りしたのは東常縁です。それまで代々東家の当主は和歌を詠んでいました。天皇が命令して編集して、勅選和歌集に和歌がとられるほど和歌が大変上手だったんですが、東氏で初めて弟子入りしたのは東常縁という人でした。

古今伝授の祖と言われていますが、古今伝授を始めたのは東常縁ではありません。その前から古今伝授はありました。東常縁は二条流の堯考という人から古今和歌集の解釈を伝えられ、古今伝授を受けています。

ではなぜ古今伝授の祖と言われていたのかというと、長らく記録で遡りうる限り、最も古かったのが常縁から宗祇への古今伝授だったので、東常縁がいつのまにか古今伝授の祖と言われるようになっていま

した。

最近の研究では常縁の師匠である堯考から常縁への伝授内容などの記録も発見されています。

東常縁は師の堯考から教えを受けたものを宗祇に伝えただけのいわば中継ぎの人かと言われると、実はそうではなくて、独自の地位があったという事もわかっています。

東氏は代々、源実朝から將軍のそば近くに仕えておって和歌もたしなんでおりましたから、実は東家は代々古今和歌集の解釈なども伝えてきました。東常縁は自分の東家に伝わった古今伝授と伝えられた二条流の古今伝授をミックスして独自の古今伝授を確立したと、最近の研究で分かっています。

ちなみに東常縁が古今伝授をして、とてもすごい人だから、その後認められて時の天皇や將軍に和歌や古今伝授を披露したという記録も、江戸時代初期や郡上の記録等にもありますが、どうも作り話のようです。

当時の公家たちはすべて日記に書き記しています。その公家たちの日記を見ても、將軍に和歌を教えたという記録はないので、多分作り話だろうと言われていました。ただ古今伝授の政治的な価値を表すものとして、よく知られているのは関ヶ原の戦いの直前に、細川幽齋が京田辺城に石田三成方に取り囲まれてしまいます。このままでは死ななければいけないという時になって、当時 東常縁から始まった古今伝授の内容を知っていたのはこの世でただ一人細川幽齋だけだった。細川幽齋が死んでしまっただけで古今伝授が途絶えるという事を危惧した後陽成天皇が石田三成方に勅使を派遣して細川幽齋の命を助けたという逸話があります。



この時、後陽成天皇が勅使として遣わしたのが烏丸光広という公家ですけれども、烏丸光広は後にお礼として細川幽齋から古今伝授を受けます。その時にある名刀をもらいます。その名刀は現在では古今伝授の太刀として国宝に指定されています。若い方は刀剣ワールドの中で、古今伝授の太刀という事でよくご存じで、東常縁や古今伝授の内容は知らないけれども、古今伝授の太刀は知っているという若い学生さんたちも多くミュージアムに来られることもあります。

源実朝は武士でありながら和歌を愛しすぎたから殺されてしまったという解釈もありますが、実際はどうだったのかという事ですが、実は実朝のお父さんの頼朝も和歌の名手でした。勅選和歌集という天皇の命令によって編集された和歌集に10首もの和歌が入っていますし、例えば北条泰時も21首の和歌が載っています。和歌を詠んだから和歌が上手だったから、文化に傾倒しすぎたから殺されたというのではなかったという事が、最近分かっています。ハレの場の主従関係として領地を与えるなどの公的な主従関係がありましたけれども、普段のケの場の主従関係として普段は歌会をして、自分の家臣団を形成していくというように、將軍家の政治の一つとして和歌が利用されていたので、当時の武士たちにとって和歌は必須教養でもありました。

武士たちにとっての和歌というものがどうなっていくのかという事で、伊勢宗瑞（北条早雲）ですけれども、「文を左にし、武を右にするのは古の法、兼ねて備へずんば有べらからず」という事で、文も武も両方できなければいけないという事を記録に残しています。戦国武将でもそうだったものですから、室町時代から鎌倉時代は武士であっても和歌は必須教養でした。そんな時代にいたのが東氏という一族でした。また東氏一族にとっても、東氏は実は最初は將軍のそば近くに仕えていて、そこそ良い地位にあったんですが、南北朝の戦いの時に最初、後醍醐天皇側について負けてしまって、そこで足利氏から声を掛けられて、足利氏に命を助けてもらって室町幕府に仕えていく事になりますから、室町時代になると残念ながら奉公衆という親衛隊の一員になっていってしまっています。ただそうであっても鎌倉時代からの文学的伝統を誇る和歌をよくする家として繋がっていきまし、特に室町幕府は京都に幕府をおいたものですから、公家の文化である和歌を大変重要視したので、將軍との社交のツールとして東氏は和歌を活用していったという事もわかっています。

東氏 800年・古今伝授 550年事業という事で、来年上演を目指して創作「東氏ものがたり」というオペレッタを作っています。令和6年4月から大和町の4つの小学校が統合します。統合する子供たちが統合前に心通わせて知り合おうという事もありますし、地元の歴史を知ってもらいたいという事で、東常縁を基にしたオペレッタ音楽劇を進めています。

また来年度になりましたらご案内できるかと思っておりますので、是非今後も応援していただければと思います。

東庄や千葉へ行きませんかという案内で、千葉市は発展していますが市民のアイデンティティがないという事で、「開府 800 年」や「千葉氏サミット」の事業を取り組み始めました。郡上とも大変ゆかりがありますので、東庄町と千葉市の東氏円の地を巡るツアーがありますので、よろしければご参加下さい。

ニコBOX

ニコBOX委員会 杉山

賢君

小島君 先日の志摩ロータリークラブの訪問へ参加の皆様、また東海北陸道グループゴルフコンペに参加の皆様、本当にご苦労様でした。楽しい日でありました。本本日大和例会、担当の方段取りありがとうございました。よろしくお祈いします。

松森君 ようこそ大和町牧へ。私の事務所はもう少し奥にあります、一度遊びに来て下さい。

寺田澄男君 松原様、郡上の歴史のお話し楽しみです。ひ孫が生まれました。人生いろいろです。

尾村君 皆さん、ももちどりの例会ご苦労様です。松原さん、卓話楽しみです。よろしくお祈いします。

藤代君 松原様、本日は卓話ありがとうございます。楽しみに聞かせていただきます。志摩RCへ参加の皆様、ご苦労様でした。遠藤君ありがとう。

和田良君 先日のグループのゴルフ会で小島君が壮年の部で見事優勝しました。松原様、今夜は卓話楽しみに来ました。よろしくお祈いします。

美谷添里恵子君 久しぶりのフランス料理、楽しみです。

畑中君 松原さん、本日ありがとうございます。皆さん、大和へようこそ。

山口君 講話楽しみに来ました。

井俣君 松原さんのお話、楽しみに来ました。よろしくお祈いします。

遠藤君 伊勢えび祭り、楽しかったです。皆さんの協力に感謝いたします。

鷲見君 秋の田起こしが終わり、今年の百姓が終わりました。

石徹白君 松原さん、卓話ありがとうございます。

同文 大村君、羽土君、山下君、寺田正実君、原君、島崎君、佐藤君、杉山君

次回行事予定

10月28日 IDM (ホスト藤代昇君)

11月 5日 長良川一斉清掃活動

11月 2日 クラブフォーラム

11月 9日 和田一浩氏 講演会

出席報告

出席委員会 山口里美君

	会員数	出席者数	欠席者数	補正者数	出席率	出席免除
第 2081 回	32名	24名			77.42%	1名
第 2082 回	32名	25名			80.65%	1名